



フィリピン・マニラ市トンド地区
スモーキーマウンテン2の

**強制立ち退きに反対する
署名・カンパにご協力いただきありがとう
ございました**

**新たに7294名の署名をフィリピン政府に
提出しました**

2013年10月7日

2012年8月から開始した、フィリピン・マニラ市トンド地区スモーキーマウンテン2の強制立ち退きに反対する「6500人の暮らしを守る」署名キャンペーンと「立ち退き反対運動への応援カンパ」キャンペーンは、多くの皆さまのご協力をいただき、2013年10月7日現在で、12,306筆の署名と273,248円のカンパをいただくことができました。深くお礼申し上げます。

<スモーキーマウンテン2の現状>

スモーキーマウンテン2の立ち退き問題は、現在、政府が用意した再定住地（ブラカン州バッチャーとなアジ掲載記事と一致させたい）への住民の自主的な移住が進行しており、これまでに約480家族が移住しています。しかしながら、周囲に職がなく、また医療機関・学校施設からも遠いという問題を抱えており、再定住地への移住を望まない住民も多数います。他方、スモーキーマウンテン2は、昨年7月に立ち退きに反対していた住民リーダーでありアクセスのスタッフでもあったマルーさんを殺害したギャング集団に依然として暴力支配されており、アクセススタッフは敷地内に入ることが危険な状況が続いています。スモーキーマウンテン2内で生活している住民も、公然と立ち退き反対とは言えない状況です。

<政府への署名の提出>

そうした中、昨年からご協力いただいていた「6500人の暮らしを守る」署名キャンペーンは、2013年10月7日現在、日本国内で11,083筆、フィリピンその他の国で1,223筆、合わせて12,306筆の署名が集まりました。

そのうち、5,012筆は昨年10月11日にベニグノ・アキノ3世フィリピン大統領宛に手紙を添えて宅配便で送りました。その後、10月17日には在大阪のフィリピン総領事館を訪ね、署名のコピーと総領事宛の手紙を、当日対応してくれた副領事のマイケル・ガルシア氏に手渡しました。

	署名数	提出時期／提出先
第一次の提出	5,012筆 (日本)	2012年10月11日 大統領府へ／コピーを 2012年10月17日 在大阪フィリピン総領事へ
第二次の提出	7,294筆 (うち 6,071 筆は日本集約)	2013年8月13日 フィリピン政府内務自治省
総計	12,306筆	

それ以降も引き続き大勢の方々に署名へのご協力をいただき、その後新たに7,294筆の署名が集まり

ました。この署名は、今年8月13日に、マニラ首都圏ケソン市にある内務自治省の本部建物の19階にある会議室で、同省の次官ビムボ・フェルナンデス氏に手渡されました。

<8月13日の行動>

1. ケソン市内で行った記者会見

昨年来、アクセスは、キリスト教の教会グループやNGOなどと一緒にCUPSというネットワーク団体を作り、スモーキーマウンテン2やその他のマニラ首都圏の都市スラムの強制立ち退き問題に取り組んできました。この日、CUPSの呼びかけで、午前中に記者会見、午後には内務自治省への訪問を行い、住民の要望を伝え、署名を手渡しました。

記者会見は立ち退き問題を抱えるケソン市内のコミュニティで行われ、主催者側から都市スラムの5つのコミュニティの代表10人、カトリックを始め4つのキリスト教グループから、3人の司教、5人の神父、5人の修道女、そしてアクセスを始めとする5つのNGOの代表・スタッフが参加して行われ、3つのテレビ局と6つの新聞社が取材を行いました。参加者を紹介した後、5つの都市スラムコミュニティが抱えている問題の提起と要求、「強制立ち退きを止めろ！対症療法ではなく原因の根絶を！」という共通の要求への教会関係者の支持声明、記者との質疑応答、主催者側のまとめ、が行われました。



記者会見の様子

2. スモーキーマウンテン2住民の切なる訴え

記者会見の中で、アクセスのスタッフであり、スモーキーマウンテン2の住民でもあるジェニファー・モラレスは、スモーキーマウンテン2で換金可能なゴミを拾って生活している住民が、どれほど厳しい生活を強いられているかを訴えました。特に、行政の末端の役人たちによって、水と電気の供給が独占され料金を過剰に徴収されていること、ゴミの買取が独占され住民たちの拾い集めたゴミが安く買い叩かれていることなどにも触れ、いかに苦しい生活を余儀なくされているかを、涙ながらに訴えました。ゴミを拾って生活している人たちは、そこから追い出されて売春や強盗を行うことを余儀なくされるよりは、灼熱の太陽や冷たい雨の下、腐臭を放つ生ゴミの匂いに耐えながらささやかな収入を得るために一生懸命働くほうがましだと思っていることを説明しました。そして、アクセスが署名キャンペーンで集めた強制立ち退きに反対する署名を見せながら次のように述べました。「日本、フィリピン、米国、ヨーロッパで集まったこの署名の束を見てください。署名をしてくれた人たちは、私たちは今いるところに住み続けるべきだと言ってくれています！それに対し、私たちの政府の何と無慈悲なことでしょう。政府は、私たちに遠く遠く離れたブラカン州に移住せよと言うのです。そこでどうやって生きて行けと言うのでしょうか！私たちの政府よりも、外国の人々のほうが私たちに深い愛と理解を示してくれるなんて、何という皮肉でしょう！」このジェニファーの言葉に、会場の全ての人々は拍手を惜しみませんでした。

3. 内務自治省での対話と訴え

午後からの政府機関との対話は、CUPSが大統領に対し面談を要求する手紙を送り、それに対する回答として実現したもので、窓口となった内務自治省を訪問しました。同省次官フェルナンデス氏が対応してくれ、フィリピン大統領および同省長官を代表し挨拶を行った後、教会・NGOグループからの発言、立ち退きの脅威にさらされている5つの都市スラムコミュニティ代表からの発言を行い、強制立ち退きの中止を訴えました。司教や神父たちは、真つ当な職を保障しない限り強制立ち退きを行うべきではないという住民たちの要求を支持する発言を行いました。



左端:スモーキーマウンテン2住民のジェニファー・モラロス氏／
右から二人目:内務自治省次官フェルナンデス氏

スモーキーマウンテン2の住民を代表して発言したジェニファーは、政府が用意した再定住地（ブラカン州バッチャ）の周辺に職がないこと、それゆえ再定住地に移っても収入を得るためマニラまで出てゴミ拾いをしなければならないが、その交通費を賄うだけの収入を得られないことを説明し、スモーキーマウンテン2の周辺への再定住の必要性を訴えました。これに対し内務自治省次官フェルナンデス氏は、ジェニファーの説明を全面的に認め、再定住を進める政府機関(全国住宅局)との会議の場でこの問題

を取り上げると約束してくれました。

対話の最後に、ジェニファーは集まった署名をフェルナンデス氏に渡しました。氏は署名を早急に大統領に届けることを約束すると共に、CUPSと内務自治省との調整委員会を設立する可能性について言及しました。

この日の行動の様子はUチューブでご覧いただけます。x x x xをご覧ください。

<今度とも注目とご支援をお願いします。>

皆さまにご協力いただいた署名は、スモーキーマウンテン2の立ち退き問題が国際的な注目を集めていることをフィリピン政府やメディアに示す上で、大きな役割を果たしました。アクセスでは、今後も、強制立ち退きを許さず、開発を進めるにせよ、住民たちの生活を優先する開発を行うよう、CUPSの仲間と共に働きかけていきます。

引き続き、皆さまの注目とご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(特活) アクセスー共生社会をめざす地球市民の会

スモーキーマウンテン支援チーム (FIT) 富田沙樹
事務局担当 野田沙良

【お問い合わせ／ご連絡先】

〒612-0029 京都市伏見区深草西浦町 4-78 村井第一ビル 7号

Tel/Fax : 075-643-7232

Email : acce@sannet.ne.jp

URL : <http://www.page.sannet.ne.jp/acce/>